

保健室からの・・・つ・ぶ・や・き

昼休みの直後、けが人や病人が何人かいてパタパタしていた時です。高学年のAさんとBさんがやってきました。先に来ていた低学年のCくんの処置をしていたのですが、そこへ割り込むようにAさんが「先生～、足が痛い。」と訴えてきました。聞こえては



いましたが、だまっていると「先生、急いでるんやけど。」とせつついてきます。「順番。」とひとこと言うと、「もう！」とふてくされて勝手に冷蔵庫を開けようとしてしました。「そんな勝手な人が使うものはおいてないの。」と言うと、「もう！サービス悪いな。」と捨て台詞を残し行ってしまいました。

別の日です。ある医薬品名を名指しで「〇〇ないの？」とやってきた子がいました。「そんな薬置いてないよ。」というと、薬箱をのぞいて「おわってる～。品揃え悪すぎ。」と言われました。

そんなある日、養護教諭の専門誌をパラパラめくっていたら、ある先生の「**コンビニ保健室をめざす!**」という一文を見つけました。「コンビニ保健室?!」と一見あまりよい印象を持たなかったのですが、その先生はコンビニを『**いろいろなものが置いてあるのでいざという時に安心、ドライバーにとっては大切な休憩所でもあるし、新製品好きにとっては楽しみの場でもある。ひとりでいて何となくさみしい時には“とりあえずコンビニでも行くか”という気分転換やきっかけ作りの場所にもなる。コンビニは、誰もがいつでも利用できる、親しみのある場所だと思う。**』ととらえておられます。そう言われるとコンビニと保健室は似たところがあるのかなと思います。保健室にも子どもの興味をひくものが多くあります。身長計や視力計だったり、心理テストや性教育の本、件の薬品類や医療器具も子どもたちは興味津々です。勉強以外で何かしら困ったことが起こった時にはとりあえず保健室へという子も少なくありません。いざという時に安心だったり、ふらっと立ち寄って気分転換できるような場所・・・それはまさに保健室の理想型です。『**コンビニのよいところを見習い、さらにコンビニにはない保健室ならではの機能（健康相談や健康に関する情報提供など）がプラスできれば子どもたちにとって保健室がますます特別な場所になる。**』とその先生はおっしゃいます。



すべてを受け入れることはできませんが、志賀小の保健室も多くの子どもたちにとって、来た時よりも少しでも気分がよくなるような保健室が作っていただけたらいいなと思っています。もちろん、保護者の皆様の来室も大歓迎！心よりお待ち申し上げます！！